

言語活動の充実について

各教科等の指導における言語活動の充実の考え方

国語科：基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う。

これを基本として

各教科等：各教科等の目標を実現するための手立てとして言語活動を充実

(言語活動により、思考力、判断力、表現力等を育むことを目指す。)

※ 各教科等の内容や各単元等のねらいに即した言語活動の充実を図ることが重要である。

言語の役割を踏まえた言語活動の指導の在り方とその具体例

言語には次のような役割があることを踏まえて指導することが大切である。

- (1) 知的活動（論理や思考）に関すること
 - ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
 - イ 事実等を解釈し、説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

学習活動の例

- ・目的に応じて文章などを読み、得られた情報を整理して文章にまとめる。(国語)
- ・観察・実験や社会見学のレポートにおいて、視点を明確にして、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する。(理科，社会等)
- ・比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する。(算数・数学，理科等)
- ・仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価し、まとめて表現する。(理科等)

- (2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること

- ア 互いの存在についての理解を深め、尊重していくこと
- イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりすること

学習活動の例

- ・体験から感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを使って表現する。(音楽，図画工作，美術，体育等)
- ・体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述する。(生活，特別活動等)
- ・合唱や合奏，球技やダンスなどの集団的活動や身体表現などを通じて他者と伝え合ったり、共感したりする。(音楽，体育等)
- ・体験したことや調べたことをまとめ、発表し合う。(家庭，技術・家庭，特別活動，総合的な学習の時間等)
- ・討論・討議などにより意見の異なる人を説得したり、議論して集団としての意見をまとめたりする。(道徳，特別活動等)

幼児教育と小学校教育の円滑な接続について

幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、この時期に質の高い幼児教育が提供されることは極めて重要である。茨城県では、「いばらき教育プラン」において、「就学前教育・家庭教育の推進」を掲げ、「幼児教育充実事業」において、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進を図っていく。

【幼児教育と小学校教育との接続】

幼児期から児童期にかけては、学びの基礎力を培う大切な時期であり、互いの教育を見通し、連続性・一貫性のある教育を行う必要がある。

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（文部科学省）より

【幼児期と児童期の学びと育ちの接続のイメージ】

